

(再評価)

資料3-①

令和2年度第1回
関東地方整備局
F U 委員会

利根川 総合水系環境整備事業 (利根川・江戸川環境整備)

令和2年12月3日
国土交通省 関東地方整備局

目次

1. 事業の概要	1
2. 事業の進捗状況と見込み等	2
3. 事業の投資効果	15
4. コスト縮減等	17
5. 関連自治体等の意見	20
6. 今後の対応方針（原案）	21

1. 事業の概要

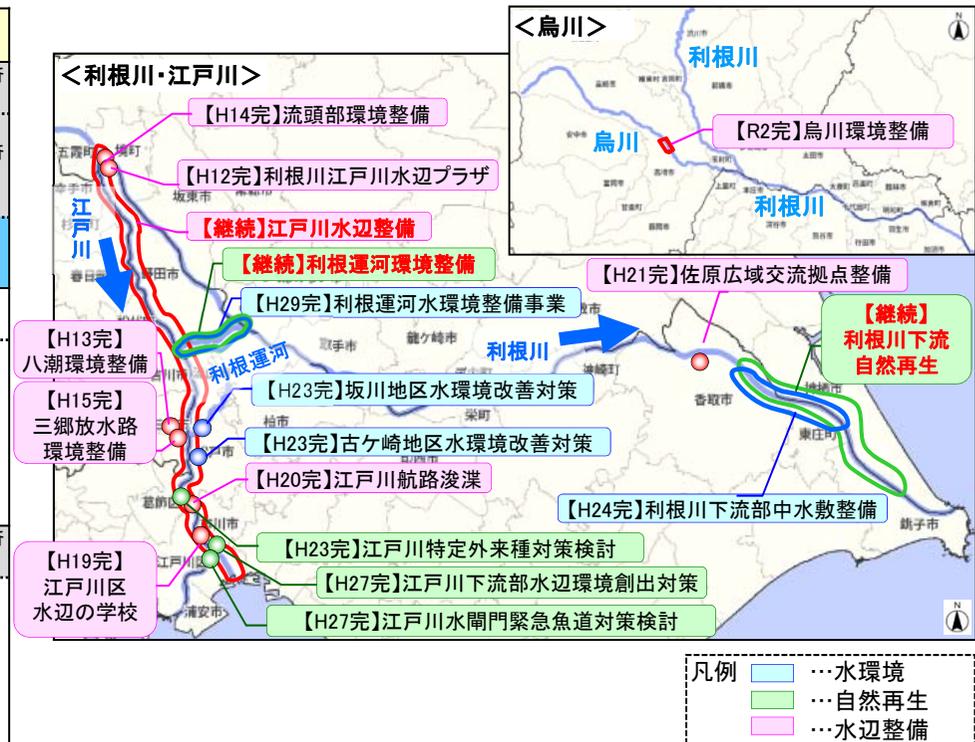
(1) 事業の目的と計画の概要

- 【水環境】首都圏の都市用水として安全な水を提供するとともに、沿川地域の水辺利用や水辺環境の改善のために、関係機関や地域住民と連携し既設浄化施設の機能向上、浄化用水の導入、植生浄化などの水質改善対策に取り組みます。
- 【自然再生】貴重な生物の生息生育空間である湿地(ヨシ原)・干潟の保全と再生に取り組むとともに、河川の連続性の確保のために、魚類の遡上、降下環境の改善を実施します。
- 【水辺整備】沿川地方公共団体が立案する地域計画等との整合を図り、都市部において貴重な自然とのふれあいの場、憩いの場である水辺空間に誰もが安心してアクセスできるようにユニバーサルデザインに配慮した水辺整備を実施します。

【実施事業】

再評価 評価単位	分野	個別事業名	箇所名 (整備の内容)	事業期間	備考
水環境	水環境	I. 利根川下流部 中水敷整備	高水敷掘削：9地区 (古ヶ崎地区水環境改善対策) 送泥管整備：700m/沈殿池整備：1箇所 (坂川地区水環境改善対策) ポンプ整備：1基/河川横断管路：1箇所	H16~H24	完了評価済 (H27)
		II. 江戸川-坂川水 環境整備事業	底泥浚渫：5,800m ³ /ポンプ整備：1箇所	H13~H23	完了評価済 (H27)
		III. 利根運河水環境 整備事業	高水敷掘削：5地区 (江戸川特定外来種対策検討) 外来種駆除等：9回	H20~H29	完了評価 (今回)
自然再生	自然再生	IV. 利根川下流 自然再生	高水敷掘削：5地区 (江戸川下流部水辺環境創出対策) 湿地整備：9,700m ² /消波施設整備：800m (江戸川水閘門緊急魚道対策検討) 呼び水ポンプ整備：3箇所 (利根運河環境整備) 魚道整備：4箇所	H25~R7	継続事業
		V. 江戸川自然 再生事業	平地整備：5,600m ² /護岸整備：140m/ 湿地整備：9.4ha (利根川江戸川水辺プラザ) 管理用通路等整備：1,826m (流頭部環境整備) 管理用通路等整備：4,000m (江戸川区水辺の楽校) 園路等整備：440m (江戸川航路浚渫) 土砂浚渫：28,300m ³ (江戸川環境整備) 坂路・階段整備：68箇所 (八潮環境整備) 管理用通路等整備：120m (三郷放水路環境整備) 管理用通路等整備：1,900m	H19~R7	継続事業
水辺整備	水辺整備	VI. 佐原広域交流 拠点整備※	平場整備：5,600m ² /護岸整備：140m/ 湿地整備：9.4ha (利根川江戸川水辺プラザ) 管理用通路等整備：1,826m (流頭部環境整備) 管理用通路等整備：4,000m (江戸川区水辺の楽校) 園路等整備：440m (江戸川航路浚渫) 土砂浚渫：28,300m ³ (江戸川環境整備) 坂路・階段整備：68箇所 (八潮環境整備) 管理用通路等整備：120m (三郷放水路環境整備) 管理用通路等整備：1,900m	H17~R6	完了評価済 (H27)
		VII. 江戸川水辺 整備事業	低水護岸整備：800m/高水護岸整備：130m/ 小水路整備：370m/ワンド整備：3箇所/ 管理用通路整備：1,460m/ 緩傾斜堤防整備：670m/階段護岸整備：300m	H7~R8	継続事業
		VIII. 烏川環境整備		H12~R2	完了評価 (今回)

【事業実施箇所位置図】



※：工事はH21年度に完了しているが、PFI事業による割賦払いのため事業期間はR6年度まで。

2. 事業の進捗状況と見込み等

(1) 事業の進捗状況(完了評価済)

1)【水環境】

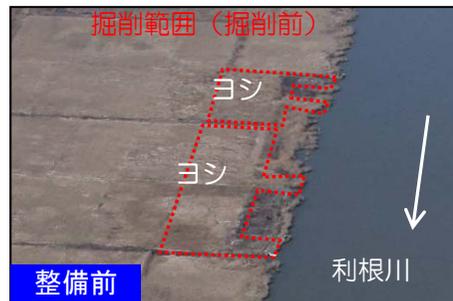
【利根川下流】河川敷の水際部を掘削し、ヨシを生育させると共に、水位の変動によりヨシに利根川の水が出入りすることにより水際部の水質浄化に寄与しています。

【江戸川・坂川】古ヶ崎地区では送泥管・沈殿池の整備(H17年完了)、坂川地区ではポンプや河川横断管路の整備(H23年完了)により江戸川・坂川の水質改善に寄与しています。

分野	個別事業名	箇所名（整備の内容）	単位	数量		事業期間
				全体計画	H27年度末	
水環境	I.利根川下流部中水敷整備	高水敷掘削	地区	9	(H24完了)	H16~H24
	II.江戸川・坂川水環境整備事業	(古ヶ崎地区水環境改善対策)送泥管整備	m	700	(H17完了)	
		(古ヶ崎地区水環境改善対策)沈殿池整備	箇所	1	(H17完了)	
		(坂川地区水環境改善対策)ポンプ整備	基	1	(H23完了)	
		(坂川地区水環境改善対策)河川横断管路	箇所	1	(H23完了)	

整備状況

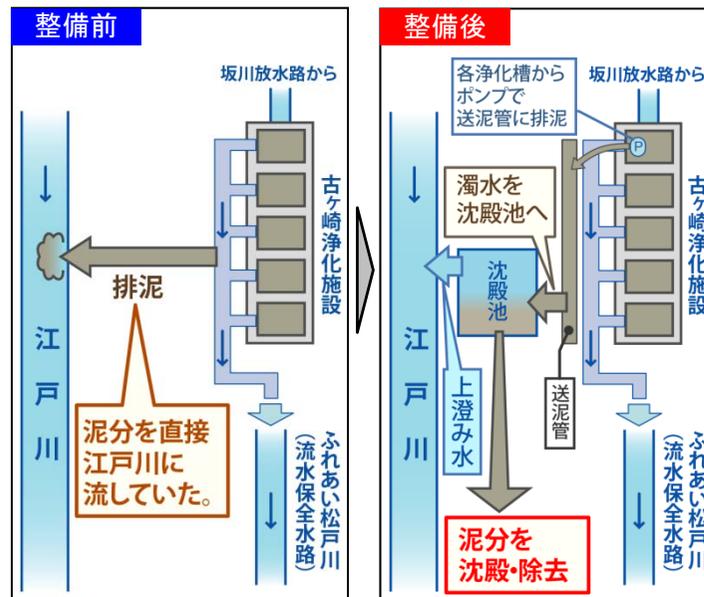
I.利根川下流部中水敷整備



河川敷の水際を掘削しヨシを形成することで利根川の水が出入りし、水際部の水質浄化に寄与しています。

II.江戸川・坂川水環境整備事業

(古ヶ崎地区水環境改善対策)



浄化施設の排泥作業時に発生する濁水から泥分を沈殿・除去することで、江戸川への泥分の流出を削減しました。

(坂川地区水環境改善対策)



流域の取組と合わせて、坂川放水路に流入する神明堀の水を抑制することで、坂川放水路の水質改善に寄与しています。

2. 事業の進捗状況と見込み等

(1) 事業の進捗状況(完了評価済)

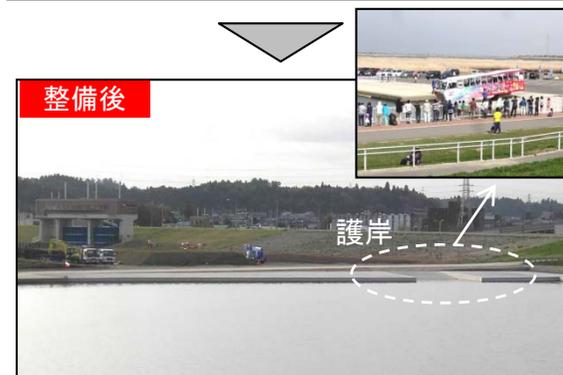
2)【水辺整備】

【佐原広域交流拠点】「水の郷さわら」の一部として、平場、護岸、湿地の整備を行いました。

分野	個別事業名	箇所名（整備の内容）	単位	数量			事業期間
				全体計画	H24年度末	残	
水辺整備	VI.佐原広域交流拠点整備	平場整備	m ²	5,600	(H21完了)	-	H17～R6
		護岸整備	m	140	(H21完了)	-	
		湿地整備	ha	9.4	(H21完了)	-	

整備状況

VI.佐原広域交流拠点整備



水際に平場・管理用通路・転落防止柵を整備することで、水辺を安全に利用できるようになりました。

勾配のゆるやかな護岸を整備することで水辺が利用しやすくなりました。

湿地の整備により、ヨシが生育し自然に親しむことができるようになりました。

2. 事業の進捗状況と見込み等

(1) 事業の進捗状況(継続事業)

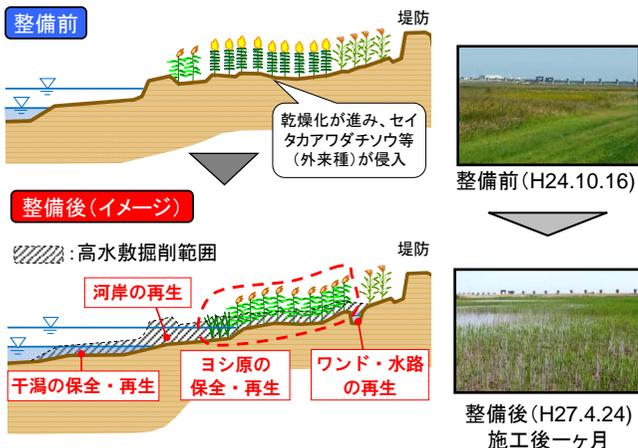
3)【自然再生】(利根川下流自然再生、江戸川自然再生事業)

【利根川下流】ヨシ原や干潟の保全・再生、河岸やワンド等の再生のため、高水敷掘削を行っています。
 【江戸川・利根運河】H28までに消波施設や魚道、湿地の整備の一部が完了しており、引き続き魚道などの整備を実施しています。

分野	個別事業名	箇所名(整備の内容)	単位	数量			事業期間
				全体計画	R1年度末	残	
自然再生	IV.利根川下流自然再生	高水敷掘削	地区	5	3	2	H25~R7
	V.江戸川自然再生事業	(江戸川特定外来種対策検討)外来種駆除等	回	9	(H23完了)	-	H19~R7
		(江戸川下流部水辺環境創出対策)湿地整備	m ²	9,700	(H24完了)	-	
		(江戸川下流部水辺環境創出対策)消波施設整備	m	800	(H27完了)	-	
		(江戸川水閘門緊急魚道対策検討)呼び水ポンプ整備	箇所	3	(H23完了)	-	
		(江戸川水閘門緊急魚道対策検討)簡易魚道整備	箇所	1	(H27完了)	-	
		(利根運河環境整備)魚道整備	箇所	4	2	2	

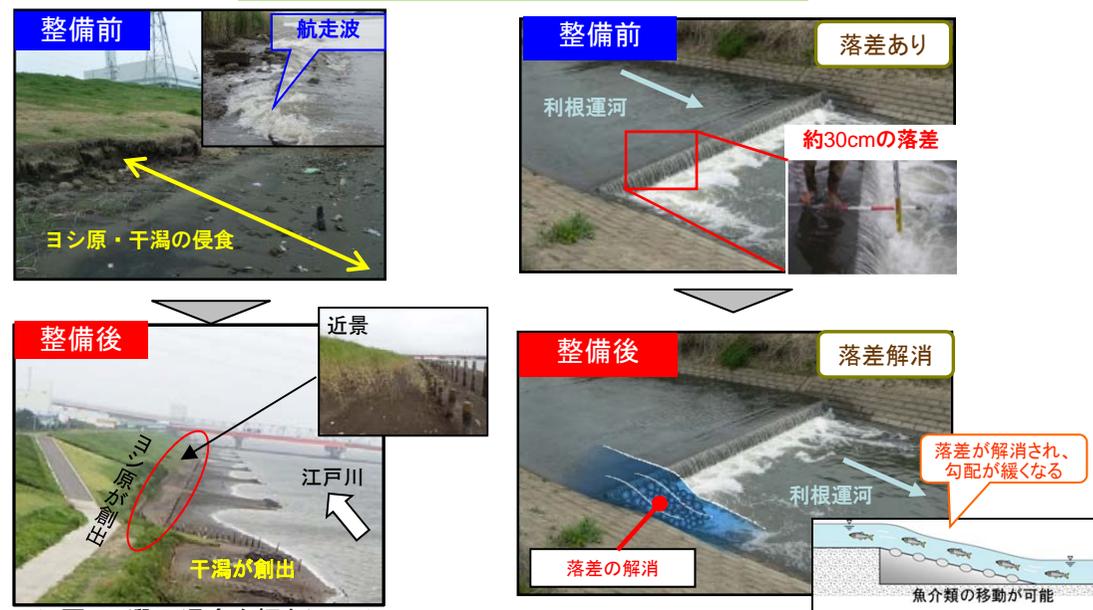
整備状況

IV.利根川下流自然再生



湿地環境(ヨシ原・干潟)の保全・再生、河岸やワンド等の再生により、利根川下流における生物多様性の確保が期待できます。

V.江戸川自然再生事業



ヨシ原・干潟の侵食を押さえ、ヨシ原・干潟が創出されている。

落差を解消し、利根運河における魚介類の移動が可能になります。

2. 事業の進捗状況と見込み等

(1) 事業の進捗状況(継続事業)

4)【水辺整備】(江戸川水辺整備事業)

【江戸川・利根運河】誰もが江戸川に行きやすく、安全に利用できる良好な水辺空間を形成するためスロープや護岸、水辺の楽校(水路・園路・木道等)の整備や航路浚渫を行っています。

分野	個別事業名	箇所名(整備の内容)	単位	数量			事業期間
				全体計画	R1年度末	残	
水 辺 整 備	VII.江戸川水辺整備事業	(利根川江戸川水辺プラザ)管理用通路等整備	m	1,826	(H12完了)	-	H7~R8
		(流頭部環境整備)管理用通路等整備	m	4,000	(H14完了)	-	
		(江戸川区水辺の楽校)園路等整備	m	440	(H19完了)	-	
		(江戸川航路浚渫)土砂浚渫	m ³	28,300	(H20完了)	-	
		(江戸川環境整備)坂路・階段整備	箇所	68	40	28	
		(八潮環境整備)管理用通路等整備	m	120	(H13完了)	-	
		(三郷放水路環境整備)管理用通路等整備	m	1,900	(H15完了)	-	

整備状況

VII.江戸川水辺整備事業

[江戸川環境整備]

葛飾区金町地先

整備前



傾斜が急で、手すりが無いため
不便なスロープ

整備後



急な傾斜を緩やかにし、手すりを設置
することにより、安全なスロープを整備

[江戸川環境整備]

流山市宮園地先

整備前



階段や通路が無い
ため水辺まで近づくことができない

整備後



安全に水辺まで近づけるよう、
階段や通路、親水護岸を整備

[江戸川環境整備]

葛飾区江戸川高水敷

整備前



未舗装のため、河川利用に
不適であった。

整備後

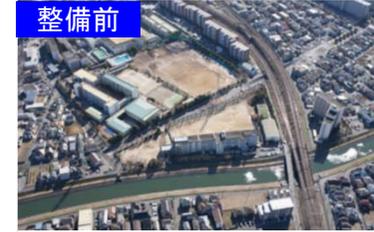


整備によりサイクリングやマ
ラソン大会に使用されている。

[江戸川環境整備]

松戸市横須賀地先

整備前



JR武蔵野線により地域が
分断されていた。

整備後



整備により、JR武蔵野線の
下を通行できた。

子どもから大人まで誰もが、安全に江戸川に行きやすくなるように、スロープ・階段・親水護岸等を整備します。

2. 事業の進捗状況と見込み等

(2) 事業の見込み等(継続事業:利根川下流自然再生、江戸川自然再生事業、江戸川水辺整備事業)

【自然再生】利根川下流自然再生：前回（H27）から変更無し

- ・引続き、ヨシ原や干潟の保全・再生、河岸やワンド等の再生のため、高水敷掘削を実施します。

江戸川自然再生事業：事業費を約0.8億円増額、事業期間を4年間延伸

- ・関係機関との調整及び、整備済魚道のモニタリング結果を踏まえ、魚道の修正設計を行うことから事業費を約0.8億円増額、事業期間を4年延伸

【水辺整備】江戸川水辺整備事業：前回（H27）から変更無し

- ・引続き、沿川地方公共団体が立案する地域計画との整合を図り、子どもから大人まで誰もが安全に江戸川に行きやすくなるように、坂路・階段等を整備します。

【自然再生】

整備前

- 利根川下流:ヨシ原の保全・再生



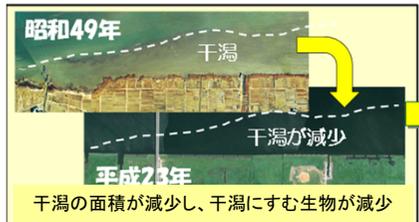
乾燥化により外来種(セイタカアワダチソウ等)が増え、ヨシが減少していました。

整備後 (イメージ)



掘削によりヨシが増え、多様な生き物の生息地が再生されました。

- 利根川下流:干潟の保全・再生



エドハゼや、ゴカイ等干潟にすむ様々な生物や野鳥の生息地が拡大します。

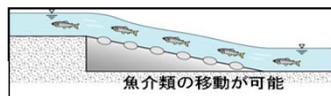
- 江戸川:魚道の整備



魚道整備により、段差を解消し、魚介類の移動を改善

	整備前	整備後
確認種数	5種	12種
確認魚種	モツコ、ミナメダカ、ドジョウ、ウキゴリ、旧トウヨシノホリ類	モツコ、キンブナ、ニオイ、オイカワ、タイリクハ、ラタナゴ、タモロコ、ツツキカダヤシ、ミナメダカ、トシヨウ、ウキゴリ、旧トウヨシノホリ類

対象魚種：モツコ、ヨシノホリ類、ナマス
モニタリング調査では、大型魚(ナマス)が確認されなかった。



【水辺利用】

整備前

- 江戸川:階段、通路等の整備



傾斜が急で、手すりが無いため不便なスロープ

整備後 (イメージ)



急な傾斜を緩やかにし、手すりを設置することにより、安全なスロープを整備



階段や通路が無いいため水辺まで近づくことができない



安全に水辺まで近づけるよう、階段や通路、親水護岸を整備

2. 事業の進捗状況と見込み等

(3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):利根運河水環境整備事業)【1/4】

【目的】利根運河の水質改善

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

- ・利根運河水環境整備事業は、当初平成20年度から平成25年度までであったが、整備後の水質改善のモニタリング調査を追加したことにより事業完了年度を平成29年度となりました。また、事業費は整備中(H24)と整備後(H27)を比較するとモニタリング調査等に係る費用で約0.5億増えました。

② 事業効果の発現状況

- ・利根川からの導水、川底に溜まった泥の除去(浚渫)により、BODで40%(H10~H19:平均8.6mg/L⇒H27~R1:平均5.2mg/L)の水質の改善がみられました。



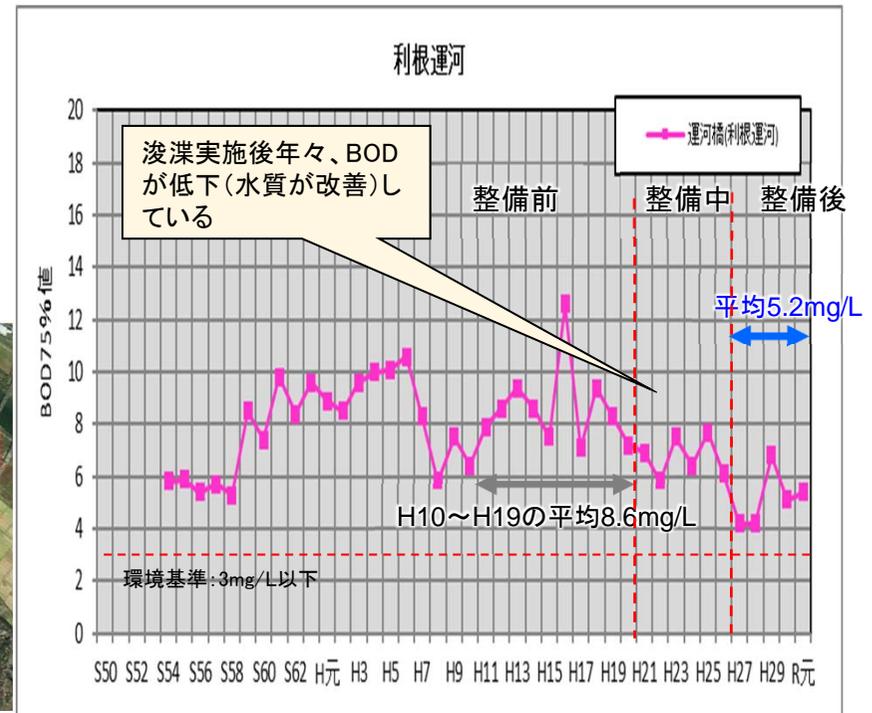
導水事業実施箇所



利根運河で実施された浚渫状況



導水・浚渫実施箇所



出典:関東地方整備局HP 水質の経年変化

● 本調査で得られた地域住民の主な意見

- ・水質が改善され、景観がよくなり水鳥も来ています。
 - ・このような取り組みを行っていただくことで改善いただけるとよいと思います。
- 出典:水環境改善の取り組みに関するアンケート調査(H27)

2. 事業の進捗状況と見込み等

(3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):利根運河水環境整備事業)【2/4】

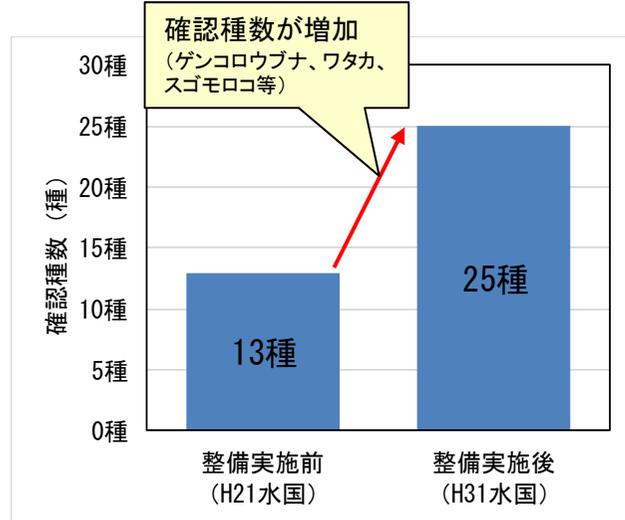
③ 事業実施による環境の変化

- ・事業の完了後、環境の変化に関する問題および指摘は特にありません。

④ 社会経済情勢等の変化

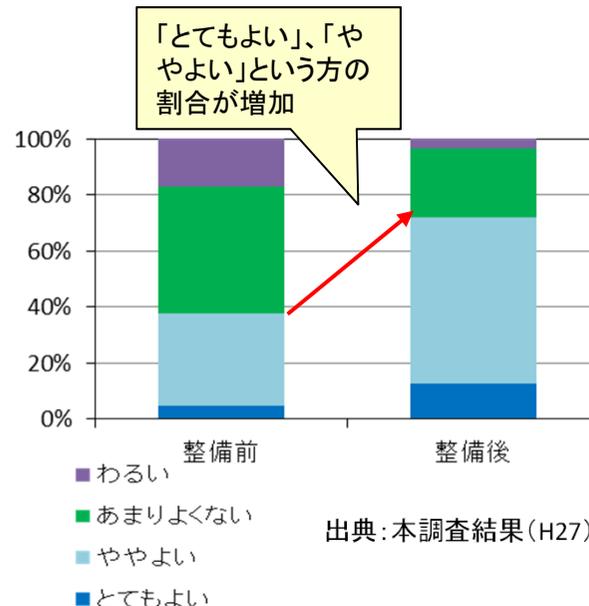
- ・水質改善の取り組みの結果、魚類の確認種類が増加し、また、人々の利根運河に対する印象も大きく変化し、水辺を利用したイベント等による賑わいが生まれています。

● 魚類の確認種数の変化



出典: 江戸川管内水辺現地調査(魚類)等

● 人々の景観の印象の変化



● 利根運河でのイベント



地元主催の「秋月の階調」(R2.10)

⑤ 本事業を通じて得られた知見

- ・利根川からの導水および浚渫による水質浄化は、多くの方々から賛同を得るとともに、魚類の増加など自然環境の改善が見られ、地域の賑わいの創出や水辺への親しみを高めることがわかりました。

2. 事業の進捗状況と見込み等

(3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):利根運河水環境整備事業)【3/4】

⑥ 費用対効果分析

※費用便益分析に係る項目は平成27年度評価時点

項目	平成27年度完了箇所評価 (整備後：今回評価)	平成24年度再評価 (整備中)	主な要因
B/C	2.2	2.3	
総便益 (B)	31.6億円	28.4億円	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的割引率（年4%）を用いて現在価値化を実施 ・WTPの増加 H24：406円 H27：408円 ・受益世帯数の増加 H24：28,125世帯 H27：28,701世帯 ※受益範囲（2km）は変更無し
総費用 (C)	14.4億円 <現在価値化前：12.7億円>	12.2億円 <現在価値化前：12.4億円>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的割引率（年4%）及びデフレータを用いて現在価値化を実施 ・モニタリング費用等の追加
事業期間	平成20年度～平成29年度	平成20年度～平成25年度	・モニタリング期間の追加
便益算定の 計算条件	<ul style="list-style-type: none"> ・評価時点：平成27年度 ・評価期間：整備期間+50年間 ・世帯数データ： 平成26年住民基本台帳 ・単価：平成27年CVM 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価時点：平成24年度 ・評価期間：整備期間+50年間 ・世帯数データ： 平成24年住民基本台帳 ・単価：平成24年CVM 	

2. 事業の進捗状況と見込み等

(3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):利根運河水環境整備事業)【4/4】

⑦まとめ

1) 今後の事後評価及び改善措置の必要性

- ・ 完了箇所においては、導水および浚渫による水質の改善により、魚類の増加や水辺イベント等の実施が確認されていることから、事業効果の発現が十分確認されており、今後の事後評価および改善措置の必要性はないものと考えられます。

2) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し等の必要性

- ・ 完了箇所評価の結果、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し等の必要性はないものと考えられます。

2. 事業の進捗状況と見込み等

(3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回): 烏川環境整備)【1/4】

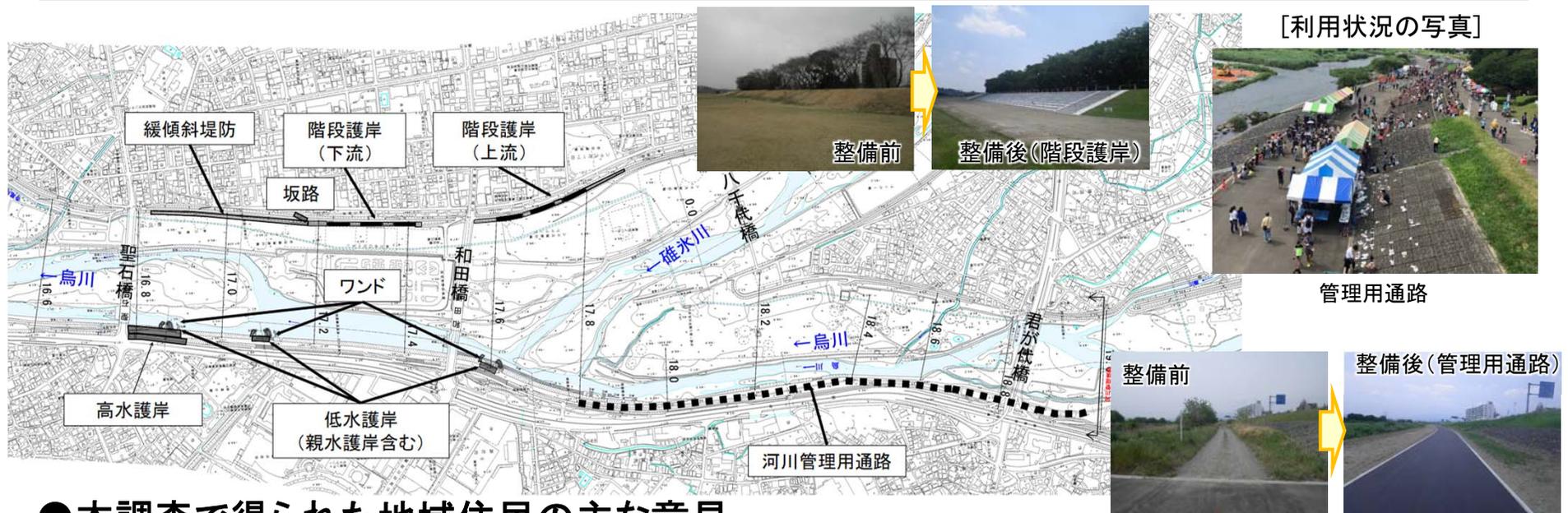
【目的】 良好な水辺空間の形成による賑わいの創出

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

- ・ 烏川環境整備は、当初平成12年度から令和3年度までであったが、事業効果の早期発現に向け整備を1年間前倒したため、事業完了年度が令和2年度となりました。また、事業費は、整備中(H27)と整備後(R2)を比較すると緩傾斜堤防等の整備等に係る費用で約0.6億増えました。

② 事業効果の発現状況

- ・ 親水護岸、散策路、小水路、ワンド、緩傾斜堤防等の整備により、高水敷や水辺にアクセスしやすくなり、水辺を安全に利用することができようになりました。



● 本調査で得られた地域住民の主な意見

- ・ 息子のサッカーの試合観戦(小学生)によく行っていました。卒業してからきれいになったのですが良い取り組みだと思います。
- ・ このように烏川が整備されていると、見た目も綺麗で安全であると思う。日頃散歩が出来たりして楽しめたり、観光にもよいし、色々と事故も少なくなるのではないかと思います。
- ・ 整備いただいたエリアの川沿いはとてもきれいで過ごしやすいです。

出典: 水環境整備の取組みに関するアンケート調査(R02)

2. 事業の進捗状況と見込み等

(3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回): 烏川環境整備)【2/4】

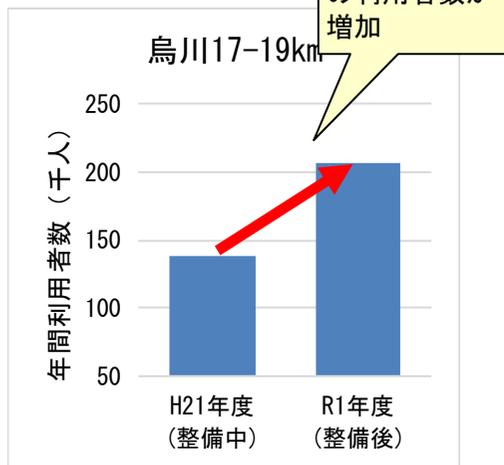
③ 事業実施による環境の変化

- ・ 事業の完了後、環境の変化に関する問題および指摘は特にありません。

④ 社会経済情勢等の変化

- ・ 親水護岸、散策路、小水路、ワンド、緩傾斜堤防等の整備により多くの人々が現地を利用しており、イベントと連携した利用により水辺の賑わいが生まれて、河川への親しみも増えています。

● 利用者数の変化

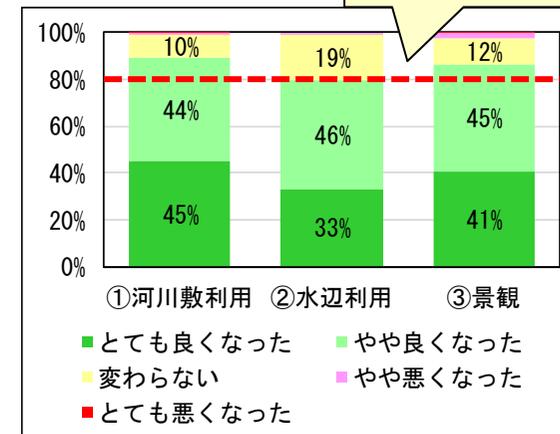


出典: 河川空間利用実態調査より作成

● イベントとの連携



● 人々の認識の変化



出典: 本調査結果(R2)

⑤ 本事業を通じて得られた知見

- ・ 水辺に親水護岸、散策路、小水路、ワンド、緩傾斜堤防等を整備し、周辺施設やイベントと連携することにより、より魅力的な水辺空間となり、利用者数の増加および地域の賑わいの創出につながることがわかりました。

2. 事業の進捗状況と見込み等

(3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):鳥川環境整備)【3/4】

⑥費用対効果分析

項目	令和2年度完了箇所評価 (整備後：今回評価)	平成27年度再評価 (整備中：前回評価)	主な要因
B/C	3.6	2.6	
総便益 (B)	67.8億円	35.6億円	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的割引率(年4%)を用いて現在価値化を実施 ・WTPの増加 H27: 272円 R2: 390円 ・受益範囲拡大による受益世帯数の増加 H27: 2km (38,311世帯) R2: 3km (58,813世帯)
総費用 (C)	18.8億円 <現在価値化前：11.3億円>	13.8億円 <現在価値化前：10.3億円>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的割引率(年4%)及びデフレーターを用いて現在価値化を実施 ・平成27年度は、消費税込、令和2年度は、消費税控除にて算出 ・整備費用の増
事業期間	平成12年度～令和2年度	平成12年度～令和3年度	
便益算定の 計算条件	<ul style="list-style-type: none"> ・評価時点：令和2年度 ・評価期間：整備期間+50年間 ・世帯数データ 平成27年国勢調査 ・単価：令和2年CVM 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価時点：平成27年度 ・評価期間：整備期間+50年間 ・世帯数データ： 平成26年住民基本台帳 ・単価：平成27年CVM 	

2. 事業の進捗状況と見込み等

(3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回): 烏川環境整備)【4/4】

⑦まとめ

1) 今後の事後評価及び改善措置の必要性

- ・ 完了箇所では、施設整備による利用者数の増加や、周辺施設・イベント等と連携した利用が行われていることから、事業効果の発現が十分確認されており、今後の事後評価および改善措置の必要性はないものと考えられます。

2) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し等の必要性

- ・ 完了箇所評価の結果、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し等の必要性はないものと考えられます。

3. 事業の投資効果

(1) 前回からの状況変化

項目	判定	
	判断根拠	チェック欄
(ア) 前回評価時において実施した費用対効果分析の要因に変化が見られない場合		
事業目的		
・ 事業目的に変更がない	・ 事業目的に変更がない	■
外的要因		
・ 事業を巡る社会経済情勢の変化がない 判断根拠例[地元情勢等の変化がない]	・ 地元情勢等に変化がない	■
内的要因<費用便益分析関係> ※ただし、有識者等の意見に基づいて、感度分析の変動幅が別に設定されている場合には、その値を使用することができる。 注) なお、下記2.~4.について、各項目が目安の範囲内であっても、複数の要因の変化によって、基準値を下回ることが想定される場合には、費用対効果分析を実施する。		
1. 費用便益分析マニュアルの変更がない 判断根拠例[B/Cの算定方法に変更がない]	・ B/Cの算定方法に変更はない	■
2. 需要量等の変更がない 判断根拠例[需要量等の減少が10%※以内]	・ 需要量は増加している。	■
3. 事業費の変化 判断根拠例[事業費の増加が10%※以内]	・ 前回事業評価時点の事業費134億円に対し、135億円(1%)増加で、10%以内である。	■
4. 事業展開の変化 判断根拠例[事業期間の延長が10%※以内]	・ 事業期間に変化がない。	■
(イ) 費用対効果分析を実施することが効率的でないと判断できる場合		
・ 事業規模に比して費用対効果分析に要する費用が大きい 判断根拠例[直近3カ年の事業費の平均に対する分析費用1%以上] または、前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている。	■ 前回事業評価で事業全体の感度分析で1以上 ・ H27評価時(事業費に消費税込)の感度分析結果(全体事業および残事業の両ケース)は、下位ケース値においても基準値1を上回っている。 (全体事業:8.8(便益-10%)、残事業:17.38(便益-10%))	■
前回評価で費用対効果分析を実施している	・ 前回評価で費用対分析を実施している	■
以上より、費用対効果分析を実施しないものとする。		

3. 事業の投資効果

(2) 費用便益分析(水系全体)

※費用便益分析に係る項目は平成27年度評価時点

水系全体における費用便益比

◆総便益 (B)	・ 沿川住民を対象としたCVMアンケートにより支払意思額 (WTP) を把握。 ・ WTPから年便益を求め、評価期間を考慮し、残存価値を付加して総便益を算定。
◆総費用 (C)	・ 事業に係る建設費と維持管理費を計上。

分野	河川名	個別箇所名	総費用(C)		総便益(B)		費用便益比(B/C)	
水環境	利根川	I.利根川下流部中水敷整備	34.3億円	7.5億円	753.0億円	31.0億円	21.9	4.1
	江戸川	II.江戸川・坂川水環境整備事業		12.5億円		690.5億円		55.3
		III.利根運河水環境整備事業		14.3億円		31.6億円		2.2
自然再生	利根川	IV.利根川下流自然再生	31.8億円	20.8億円	513.3億円	49.2億円	16.1	2.4
	江戸川	V.江戸川自然再生事業		11.0億円		464.1億円		42.2
水辺整備	利根川	VI.佐原広域交流拠点整備	130.5億円	9.1億円	646.8億円	15.3億円	5.0	1.7
	江戸川	VII.江戸川水辺整備事業		107.5億円		596.0億円		5.5
	烏川	VIII.烏川環境整備		13.8億円		35.6億円		2.6
合 計			196.6億円 [現在価値化前188.9億円]		1,913.2億円		9.7	

※総費用 (C) ・ 総便益 (B) は、社会的割引率 (4%) 及びデフレーターを用いて現在価値化を行い算定。

※完了評価済の箇所については、完了評価時の評価値を現在価値化等して算定。

※表示桁数の関係で計算値が一致しない場合があります。

4. コスト縮減等

(1)コスト縮減に繋がる取り組み(利根川下流)

■地元自治体や市民との協働による取り組みによって、より良い河川環境の維持が図られております。

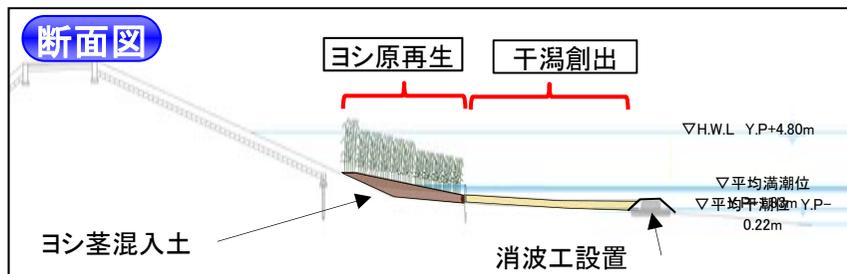


香取市による河川愛護月間の一環として実施された清掃活動では、佐原中学校及び当事務所を含む周辺所在の事業所、市民団体等総勢約450名の参加者の皆さんによる利根川・十間川の河川清掃が実施されています。

4. コスト削減等

(1)コスト削減の取り組み(江戸川)

- 干潟の創出を自然の力によることで約440万円の整地費を削減しました。
- 既存の管理用道路を活用することで、約1,000万円の下層路盤整備費を削減しました。



舗装 (環境整備事業費)

下層路盤
(既存管理用道路)

従来：整地費
(200円/m²×22,000m²=約440万円)

コスト削減実施後：整地費 0円

従来：下層路盤整備費
(4,000円/m²×25,000m²=約1,000万円)

コスト削減実施後：整地費 0円

(2)コスト削減に繋がる取り組み(江戸川)

- 地元自治体や市民との協働による取り組みによって、より良い河川環境の維持が図られております。



流域住民や関係機関との協働による維持管理状況(坂川)



東京理科大生による魚類遡上調査(利根運河)



市立柏高校生によるアレチウリ除去活動(利根運河)

※会議終了後、資料を一部修正

4. コスト縮減等

(1)コスト縮減に繋がる取り組み(烏川)

- 地元自治体や市民との協働による取り組みによって、より良い河川環境の維持が図られております。



クリーン作戦(和田橋周辺)

5. 関連自治体等の意見

・再評価における都道府県の意見は下記の通りです。

関係都県	再評価における意見
茨城県	<p>利根川・江戸川は首都圏に広がる貴重な水辺空間であり、その保全・再生が必要であることから、本事業の継続を希望します。</p> <p>また、コストの縮減を図りながら事業を進めていただくようお願いいたします。</p>
群馬県	<p>烏川事業箇所は、基盤整備が完了し、安全・安心に利用できるようになったことで、散策やスポーツなどに親しむ住民が増え、沿川の貴重な水辺空間となっている。</p> <p>今後も、良好な河川環境の保全・再生、水辺空間の利用促進が図られるよう、高崎市に対する支援・協力をお願いするとともに、関係施設の適正な維持管理をお願いしたい。</p>
埼玉県	<p>坂路や拠点整備など、人々が近づき親しみを感じる施設の整備については今後も進めていただきたい。</p> <p>併せて、コスト縮減に十分に留意し、事業を進めていただきたい。</p>
千葉県	<p>利根川・江戸川の沿川に位置する本県にとって、自然環境の保全や再生、良好な水辺空間の確保の観点から今後も必要な事業であり、事業効果も見込まれることから事業の継続を要望します。</p> <p>なお、事業の実施にあたってはコスト縮減に十分配慮して進めて頂きたい。</p>
東京都	<p>都市化が著しい首都圏において、江戸川下流部は、多様な水辺利用が楽しめ、豊かな自然が存在する貴重な空間である。</p> <p>良好な河川環境の保全・再生に向けて、地元との調整やコスト縮減を十分行いながら、河川環境整備事業を継続されるようお願いする。</p>

6. 今後の対応方針（原案）

（1）事業の必要性に関する視点（事業の投資効果）

①事業をめぐる社会情勢等の変化

- ・利根川および江戸川は、流域住民にとって、水道水等の貴重な水源であるとともに、自然環境が残り、多様な水辺利用を楽しめる貴重な空間であり、利根川および江戸川の水質改善、自然環境の保全・再生や、烏川を含め誰もが安心して水辺や自然とふれあう事のできる施設整備の必要性はますます高まっています。
- ・本事業を推進することにより、利根川及び江戸川、烏川の持つ水と緑豊かな河川環境への親しみがさらに生まれ、河川空間がより身近なものとなることで、地元自治体や住民からの期待は高まると考えられ、本事業の必要性は変わりなく、事業投資効果も見込まれます。

②事業の投資効果

平成27年度評価時	B/C	B（億円）	C（億円）
利根川総合水系環境整備事業 （利根川・江戸川環境整備）	9.7	1,913.2	196.6

（2）事業の進捗状況・事業の進捗の見込みの視点

- ・今後も事業実施にあたっては、社会情勢等の変化に留意しつつ、運営の主体となる協議会、関係機関や地元関係者等との調整を十分図り、利用計画・維持管理計画の策定など、更なる利用促進に向けて取組みを進めます。

（3）コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・維持管理については、地元自治体や市民との協働によりコスト縮減に努めます。

（4）今後の対応方針（原案）

- ・本事業は、水質改善、生物の生息・生育環境の保全・創出、水辺や自然とふれあえる水辺空間確保の観点から、事業の必要性が高く、引続き事業の継続が妥当と考えます。